

1. 単元名 2年算数 8 「ひき算(2)」(全7時間)

2. 単元の目標

算数への関心・意欲・態度

3位数から2位数をひく減法の計算に習熟し、日常生活に用いようとする意欲をもつ。

数学的な考え方

3位数から2位数をひいて繰り下がりのある減法の計算の方法を考えることができる。

数量についての表現方法や処理の仕方

3位数から2位数をひいて繰り下がりのある減法の計算ができる。

数量についての知識・理解

3位数から2位数をひいて繰り下がりのある減法の計算原理や方法を理解することができる。

3. 単元指導計画

小単元	時	ねらい	主な学習活動	個の学力を向上させるための主な手立て	
				評価規準	個のつまずきに対する主な指導・援助
ひき算	1	百何十から何十をひく、繰り下がりのある減法(120-90)の計算原理や方法を理解し、計算することができる。	<p>赤組の点数は120点で、白組は90点です。赤組は白組よりなん点おおいでしょう。</p> <p>立式する。</p> <p>120-90のけいさんのしかたをかぞえぼうをつかってお話ししよう。</p> <p>個人追究 数え棒を操作しながら話す。ペアやグループで交流し、お互いの考えを聞き合う。</p> <p>集団追究 120と90は、それぞれ10のたばが12個と9個あり、10のたばが12-9=3個あるから30になることを確かめる。</p> <p>何百何十 何十にけいさんは、10のいくつぶんとして考えればよい。</p>	<p>数学的な考え方</p> <p>120-90は、10がいくつ分あるかを考え、12-9=3で10のたばが3個で30となることを数え棒を根拠にして話すことができる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>120を10のいくつ分と考えることができない。120を100のたばと20で表すが、100を10が10個分ととらえることができない。</p> <p>評価 数え棒操作、お話し</p> <p>手だて T1:「120は10がいくつぶんか?」と問い10を単位にして考えさせるようにする。</p> <p>T2: 全体指導をする。</p>
	2	3位数 2位数において、百の位から十の位へ繰り下がる減法(135-74)の計算原理や方法を理解し、筆算で計算することができる。	<p>ゆうきさんの学校の2年生は135人です。そのうち男の子は74人です。2年生の女の子は何人でしょう。</p> <p>立式する。前時までの学習と比較する。</p> <p>10のくらいがひけない、135-74のけいさんのしかたをかぞえぼうをつかってお話ししよう。</p> <p>個人追究 数え棒を操作しながら話す。ペアやグループで交流し、お互いの考えを聞き合う。</p> <p>集団追究 同じ位同士をひくが、十の位の3-7ができない場合は、百の位から繰り下げてひき、13-7とすることを確かめる。</p> <p>十のくらいがひけないときは、百のくらいからくりさげればよい。</p>	<p>数学的な考え方</p> <p>135-74の筆算の仕方を、既習の繰り下がりのあるひきざんの内容をもとに、十の位がひけない時は、百の位から繰り下げてひくことを数え棒を根拠にして話すことができる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>十の位がひけない時、百の位から繰り下げることがわかって、100のたば1個を、10のたば10個に換えることができない。</p> <p>評価 数え棒操作、お話し、ノート</p> <p>手だて T1: 既習の繰り下げの方法や、1000までの数で、100は10が10個分であることを思い出させる。</p> <p>T2: 全体指導をする。</p>
	3	3位数 2位数で、繰り下がりが1回の減法を、筆算で正しく計算することができる。	<p>筆算の復習をする。</p> <p>ひきざんを、正しくひきざんでけいさんできるようにしよう。</p> <p>個人追究 計算練習をする。</p>	<p>表現・処理</p> <p>前時の学習をもとに、十の位がひけない時は、百の位から繰り下げてひくことを、筆算で正しく計算できる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>百の位から繰り下げた時、百の位の数を /線を引いて取り消したり、十の位に繰り下げた10を書くことを忘れて計算する。</p> <p>評価 ノート</p> <p>手だて T1: 数え棒の操作を通して、繰り下がりの様子を思い出させ、筆算においても同様に考えて計算するよう声をかける。</p> <p>T2: 早く正確に計算できた児童への、小さい計算ミスに対しての指導や全体指導をする。</p>
	4	3位数 2位数において、十の位から一の位へ、百の位から十の位へ繰り下がる減法(145-87)の計算原理や方法を理解し、筆算で計算することができる。	<p>うんどう会を見にきた人が145人いました。そのうちの87人がひるやすみになったのでかえりました。なん人のこっているでしょう。</p> <p>立式する。前時までの学習と比較する。</p> <p>一の位と十の位がひけない145-87のけいさんのしかたを考えよう。</p> <p>個人追究 数え棒を操作しながら話す。ペアやグループで交流し、お互いの考えを聞き合う。</p> <p>集団追究 145-87の計算の仕方(一の位がひけない時は十の位から、十の位がひけない時は百の位から順に繰り下げの方法)をまとめる。</p> <p>一の位と十の位がひけないときは、上のくらいからじゅんにくりさげればよい。</p>	<p>表現・処理</p> <p>前時の学習をもとに、一の位も十の位もひけない時は、十の位から一の位へ繰り下げる、次に百の位から十の位へ繰り下げてひくことが分かり、繰り下がる様子を筆算の中に正しく記して計算できる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>十の位や百の位から繰り下げた時、十の位や百の位の数を /線を引いて取り消したり、数が1減ったことを書き忘れる。また、一の位や十の位に繰り下げた10を書くことを忘れて計算する。</p> <p>評価 ノート</p> <p>手だて T1: 数え棒の操作を通して、繰り下がりの様子を思い出させ、筆算においても同様に考えて計算するよう声をかける。</p> <p>T2: 全体指導をする。</p>

	5	<p>3位数 2位数において、百の位から十の位と一の位へ波及的に繰り下がる減法(102 - 74)を、数え棒操作をして計算原理を考える算数的活動を通して、筆算で計算することができる。</p>	<p>たけしさんは102円もっています。74円の消しゴムを買いました。お金はいくらのこっているでしょう。</p> <p>前時までの学習と比較する。</p> <p>ひかれるかずの十のくらいが0のけいさんの仕方を考えよう。</p> <p>個人追究 数え棒を操作しながら話す。ペアやグループで交流し、お互いの考えを聞き合う。</p> <p>集団追究 一の位へ繰り下げるために、百の位から十の位へ、十の位から一の位へ順に繰り下げていく方法をまとめる。</p> <p>十のくらいが0のときは、百の位から繰り下げて、十の位を9にすればよい。</p>	<p>表現・処理</p> <p>3位数 2位数において、十の位が0のため繰り下げることができない時、百の位から十の位へ、十の位から一の位へと順に繰り下げることがわかり、筆算を用いて正しく計算することができる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>十の位や百の位から繰り下げた時、十の位や百の位の数を /線を引いて取り消したり、十の位を10にしたままになる。</p> <p>評価 ノート、半具体物操作</p> <p>手だて</p> <p>T1: 数え棒の操作を通して、繰り下がりの様子を具体的に理解させ、筆算においても同様に考えて、百の位から順に計算できるかを見届ける。</p> <p>T2: 繰り下がりの様子を思い出させ、筆算においても同様に考えて計算するよう声をかける。</p>
れんしゅう	6	<p>繰り下がりのある3位数 2位数の計算原理の確かめをするとともに、筆算による計算技能を高めることができる。</p>	<p>前時の復習をする。</p> <p>いろいろなひきざんをひっさんで正しくできるようにしよう。</p> <p>教科書 P68の問題に取り組む。</p>	<p>表現・処理</p> <p>3位数 2位数の計算を、繰り下がりに気をつけて正しく筆算ができる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>繰り下げの順番を間違える、繰り下がった数の記述ミス、ひきざんの計算ミスなどしている。</p> <p>評価 ノート</p> <p>手だて</p> <p>T1: 筆算のどこにつまずいているかを指摘し、数え棒操作や1 1位数のひきざんをゆっくり計算させる。</p> <p>T2: 早く正確に計算できた児童への、小さい計算ミスに対する指導や全体指導をする</p>
まとめよう	7	<p>繰り下がりのある3位数 2位数の計算原理の確かめをして、練習問題を通して定着が不十分な所について理解を深める。</p>	<p>ひきざんのとめをしよう。</p> <p>教科書 P69のとめに取り組む。</p>	<p>表現・処理</p> <p>3位数 2位数の計算の、繰り下がりの処理の誤りに気づき、正しく筆算することができる。</p>	<p>つまずきの様相</p> <p>繰り下げの順番を間違える、繰り下がった数の記述ミス、ひきざんの計算ミスなどしている。</p> <p>評価 ノート</p> <p>手だて</p> <p>T1: 筆算のどこにつまずいているかを指摘し、数え棒操作や1 1位数のひきざんをゆっくり計算させる。</p> <p>T2: 正確に早く計算できる児童の見届けをする。</p>